

# 2016年度 南種子町郷土館 年報



---

南 種 子 町 郷 土 館

鹿児島県熊毛郡南種子町中之上2420-2

TEL (0997) 26-1111

---

# 目 次

館 沿 革 .....	1
館 日 誌 .....	2
<b>1. 施設の防火設備及び危難経路 .....</b>	<b>4</b>
<b>2. 事 業 .....</b>	<b>5</b>
①展 示 .....	5
②展示の概略 .....	7
③企画展 .....	8
④資料収集活動 .....	10
⑤新収蔵資料 .....	10
<b>3. 教育普及活動 .....</b>	<b>10</b>
①勾玉づくり体験教室（中平小学校5年生） .....	10
②夏休み企画「昔の遊び道具づくり体験教室」 .....	10
<b>4. 入館者数 .....</b>	<b>12</b>
<b>5. 郷土館の組織 .....</b>	<b>13</b>
<b>6. 研究論文 .....</b>	<b>14</b>
宮松原神社について	
南種子町文化財保護審議委員 柳田 和則 .....	14

## 南種子町郷土館の沿革

- 昭和44年 2月28日：町立博物館設置準備委員を委嘱
- 昭和44年 3月 7日：第1回町立博物館設置準備委員会
- 昭和44年 3月25日：資料収集協力員と準備委員との合同会
- 昭和44年 4月14日：第2回町立博物館設置準備委員会
- 昭和44年 5月16日：第3回町立博物館設置準備委員会
- 昭和44年 6月 7日：第4回町立博物館設置準備委員会
- 昭和44年 9月13日：第5回町立博物館設置準備委員会
- 昭和44年11月 1日：旧ユースホステルの1室を使用し、「南種子町立南島民俗博物館」  
として開館。
- 昭和44年11月17日：第6回町立博物館設置準備委員会（最終）
- 昭和61年 3月 5日：「南種子郷土館」として開館
- 平成19年 2月 1日：旧郷土館の老朽化に伴い、旧公立種子島病院跡に一時移転して  
開館
- 平成21年 4月30日：広田遺跡展示室改修工事
- 平成24年 4月 1日：社会教育課とともに、郷土館も旧南種子高等学校跡（南種子町  
中央公民館に改名）に移転して開館
- 平成28年 4月 1日：社会教育課が本庁舎へ移転、郷土館の事務所と上中児童クラブ  
が併設

## 館日誌

- H28.
4. 1 社会教育課が本庁舎へ移転、郷土館事務所と上中児童クラブが併設
  5. 3 郷土館との協賛事業 ゴールデンウィーク イベント「昔の子供の  
～5 遊び体験」を広田遺跡ミュージアムで開催（指導者として、郷土館  
から出向）
  5. 2 3 南種子町文化財保護審議委員会・郷土館・広田遺跡ミュージアム  
管理委員会
  5. 2 5 ヤコウガイのアクセサリー及び勾玉づくり体験教室指導（指導者と  
して広田遺跡ミュージアムへ出向）
  5. 2 7 町立島間小学校来館
  6. 1 町立中平小学校5年生勾玉づくり体験学習指導  
（島間自然の家へ出向）
  6. 2 4 インギー鶏育種会新規加入会員認定調査
  7. 1 企画展開催「平成28年度新収蔵資料展」8月31日まで
  8. 9 郷土館及び中央公民館消防設備点検
  8. 2 3 水戸農業高校研修（インギー鶏についての説明講師として寺内昭徳  
氏鶏舎及び花峰小学校鶏舎へ出向）
  8. 2 4 西之表市池野老人クラブ来館
  8. 2 6 上中児童クラブ体験学習（ブンブンゴマ・紙ゴマ・割りばし鉄砲・  
竹鉄砲づくり指導）
  9. 1 1 博物館実習生指導
  9. 2 5 赤米シンポジウム開催
  10. 2 荃永宝満神社願成就祭撮影
  10. 1 5 企画展開催「様々な畜力労働で活躍した馬の鞍」展  
12月27日まで
  11. 2 5 町立長谷小学校見学（昔の生活用具について学習）
  12. 0 2 民謡大会開催
  12. 2 5 愛媛県飛島村友好都市交流団来館

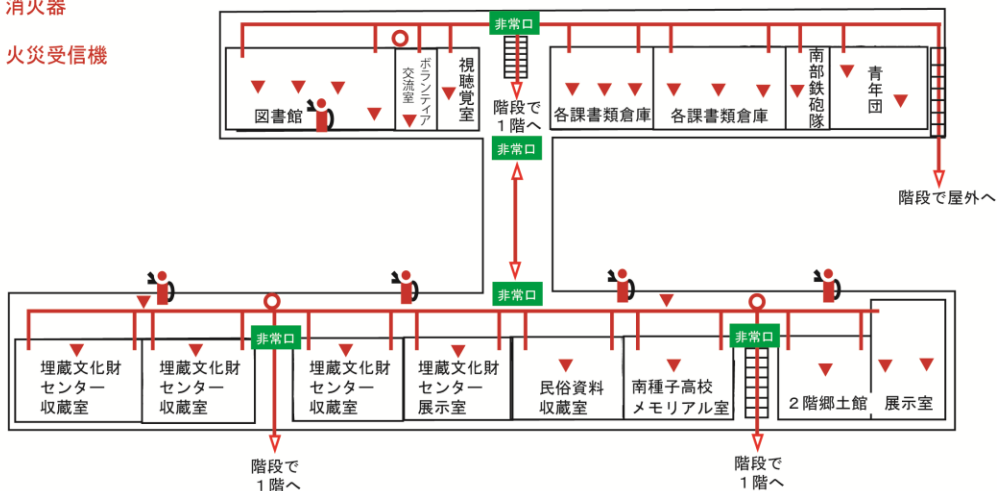
- H29.
1. 25 南種子町文化財保護審議会
  2. 21 郷土館企画展「山本直純展」開催
- ～3. 31
2. 23 町立中平小学校見学（昔の生活用具について）
  2. 25 町立中平小学校見学（砂糖づくりについて）
  3. 5 インギー鶏品評会開催
  3. 8 町立花峰小学校見学（昔の生活用具について）
  3. 24 インギー鶏の認定調査

# 1. 施設の防火設備及び避難経路

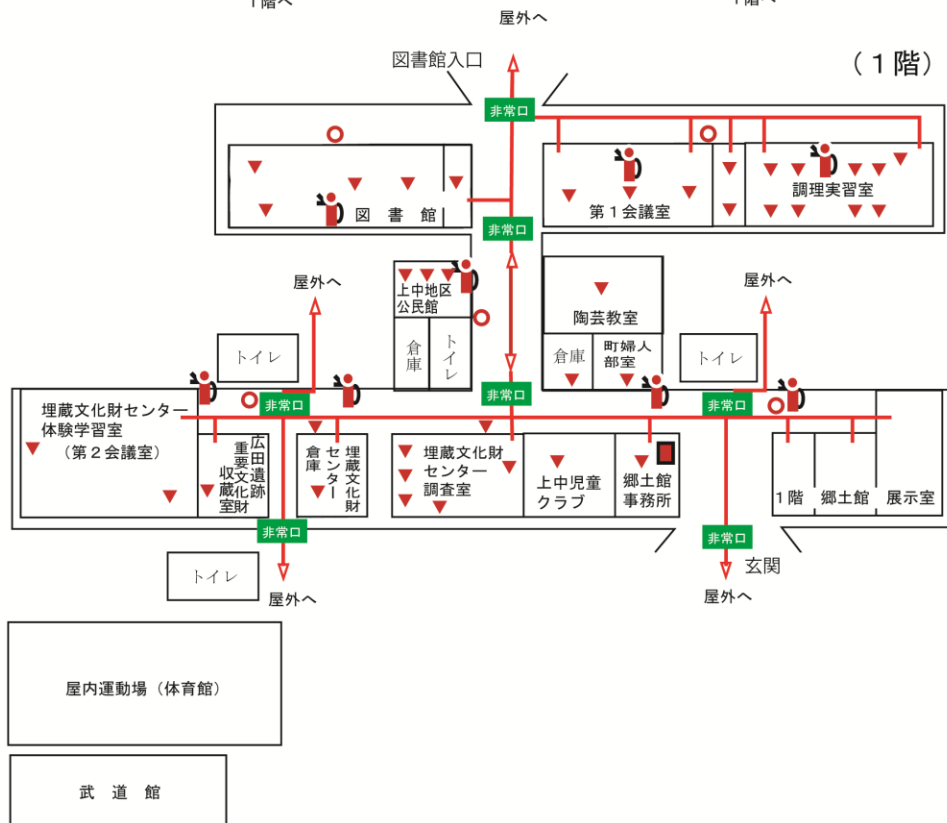
## ■南種子町 郷土館 中央公民館 の防火設備及び避難経路

- 火災報知機
- ▼ 煙・熱等の感知器
- 🚒 消火器
- 火災受信機

(2階)



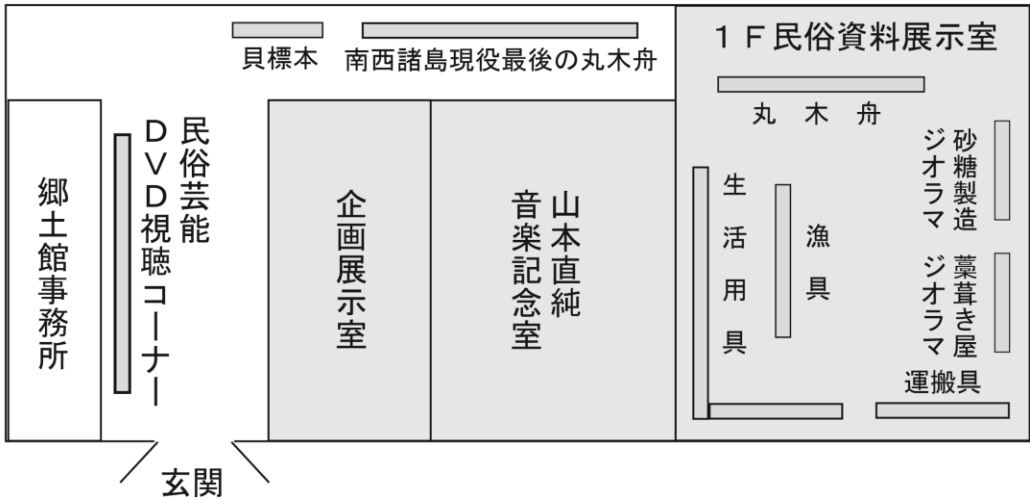
(1階)



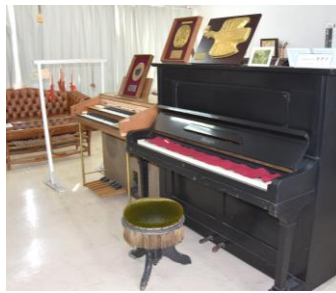
## 2. 事業

### ① 展示

#### 1階 展示室



1階民俗展示室（生活用具）



山本直純音楽記念室



1階廊下展示  
南西諸島現役最後の丸木舟

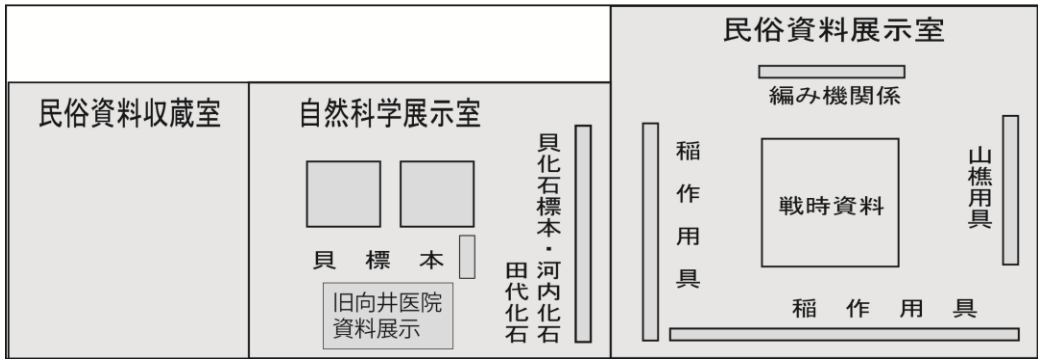


企画展示室「様々な畜力労働で活躍した馬の鞍展」より



1階廊下展示（過去の企画展より）  
「宝満池の鴨突き網猟」のパネル展示

## 2階 展示室



2階民俗展示室（稲作用具）



2階民俗展示室  
（戦時資料）



2階民俗展示室（山樵用具）



2階自然科学展示室（貝化石標本）



## ②展示の概略

### ■民俗展示室（1階）

住まいに関する生活用具を中心に展示。

壁面や空スペースを利用して、丸木舟や馬車などの大型資料も展示しています。丸木舟（刳舟）については、通常のもの、隣接する廊下に南西諸島において現役で最後まで使用していた丸木舟（牛野春芳氏寄贈）とを比較展示することで、それぞれの歴史や生活感の違いを感じて欲しいとのねらいがあります。

### ■山本直純記念室（1階）

山本直純氏愛用の楽器・オーディオ機器・レコード・盾・賞状などの寄贈品を展示。また、山本直純氏との交流のきっかけとなったイベント「トンミーフェスティバル」についてもパネルで紹介しています。今年度は、寄贈カセットテープを一部CD化しました。

### ■企画展示室（1階）

今年度は、「平成28年度新収蔵資料展」・「様々な畜力労働で活躍した馬の鞍展」・「山本直純展」を開催しました。写真は、「様々な畜力労働で活躍した馬の鞍展」の様子です。

### ■廊下展示版（1階）

1階廊下の窓枠に展示板を設置し、過去の企画展のパネル展示を行いました。写真は毎年11月15日～翌年2月15日の猟期間に行われている県指定文化財「宝満池の鴨突き網猟」のパネル展示です。

### ■民俗展示室（2階）

稲作用具を中心とする農具や山で使用する山樵用具等を展示。

また、展示スペースの問題で、軍服・勲章・遺書などの戦時資料等も、同室に展示しています。

### ■旧遺跡展示室（2階）

2階の遺跡展示室は、12月より同館（2階）の埋蔵文化財センターにおいて展示することになり、今後は民俗資料の収蔵庫として活用していきます。

### ■自然科学展示室（2階）

今から1600万年前の河内貝化石群や500万年前の田代化石をはじめとする貝の化石標本を展示しています。また、併せて、種子島で採集した貝の標本も展示しています。

### ③企画展

#### ■企画展「平成28年度 新収蔵資料」展（平成28年7月1日～8月31日）



今回の新収蔵資料展は、平成26～27年度に寄贈していただいた資料15点のうち8点を展示しました。他の7点については、日悦上人の法衣など、管理面で不安なところがあり、広田遺跡ミュージアムで展示してもらいました。

郷土館においては、まだ電灯がない時代に活躍したランプなどの照明具から魚の重さを

量ったと思われるチキリ（棹秤）などの民具・ゴマサバの骨格標本や貝殻教本、さらには歴史資料としての槍や木像等々を展示しました。寄贈された方も、家族や友人たちを連れて来られ、喜んでおられました。夏休み期間ということで、子供たちは、特にゴマサバの骨格や貝殻標本などに興味を示していました。

また、今回は寄贈資料が少なかったので、同展示室に以前開催した「ウミガメ展」のパネルも併せて展示しました。ウミガメ展では、ウミガメのクイズパネルを見ながら、家族で問題に答えている「微笑ましい」光景も見られました。



#### ウミガメのパネル展

来館者158名（幼児：4名・小学生：62名・中学生：4名・高校生19名  
大学生：1名・一般：68名）

#### ■企画展「様々な畜力労働で活躍した馬の鞍」展

（平成28年10月15日～12月27日）

当時、馬は私たちの最も身近で強力な相棒として、農耕や運搬などの様々な労働の手伝いをしてくれました。そして、そうした労働を行う際、その労働内容に応じた鞍が馬の背に取り付けられました。

今回の企画展では、そうした様々な場面で活躍した「馬の鞍」にスポットを当て、その



特徴や工夫について紹介しました。

また、併せて昭和38年当時の貴重な馬耕や馬車の映像（峰山写真館提供）等のビデオ放映も行いました。



**来館者153名（幼児：12名・小学生：47名・一般：94名）**

### ■企画展「山本直純」展（平成29年2月21日～3月31日）

豪快な笑い声とヒゲがトレードマークであった山本直純氏は、管弦楽・吹奏楽などのクラシック音楽はもとより、映画音楽からテレビやラジオ番組の主題歌・歌謡曲・童謡に至るまで幅広く作曲・編曲活動を行い、活躍された方です。山本氏は東京の出身ですが、平成10年に本町で開催された英国祭「トンミーフェスティバル」のテーマソングの依頼がご縁で、楽器や音楽機材・楽譜などの音楽資料からテーブルやソファーなどの家具に至るまで、たくさんの資料を寄贈して下さいました。



今回の企画展では、資料寄贈のきっかけとなったトンミーフェスティバルのテーマソング「夢の船ドラメルタン号の歌」の楽譜をはじめ、親交のあった「さだまさし」氏の楽曲や皆さんご存知の童謡「赤とんぼ」や「さっちゃん」などをオーケストラ用に編曲した楽譜なども展示しました。



**来館者183名（幼児：4名・小学生：87名・高校生：2名  
大学生：11名・一般：79名）**

#### ④資料収集活動

今後も町の広報紙での呼びかけや文化財保護審議委員からの情報提供をお願いしながら、資料の収集活動を行っていきます。これまで遺跡関係の資料を展示しておりました2階の遺跡展示室の資料が、12月から埋蔵文化財センターの展示室へ移転することになったため、半室を民俗資料の収蔵室として活用することとなりました。これにより、これまで満杯だった収蔵室に少しだけ余裕ができ、収集資料の収蔵が可能になりました。

#### ⑤新収蔵資料（平成28年度）

今年度の寄贈・寄託資料はありませんでした。

### 3. 教育普及活動

#### ① 勾玉づくり体験「中平小学校（5年生）」（平成28年6月1日）

平成28年6月1日、町立中平小5年生の宿泊学習の中で、今年度も勾玉づくり体験学習の講師として、製作の指導を行いました。最初に勾玉について、少し話をした後、製作に入りました。勾玉づくりは、自分が納得できるまで、唯ひたすらサンドペーパーで削っていく、とても根気のいる作業です。形も細身の勾玉から丸っこい勾玉まで、表面の仕上げも傷が気になって一生懸命磨き続ける人から途中で疲れてあきらめる人、様々です。それでも何とか最後勾玉にヒモをつけるところまでできて、とても喜んでいただきました。



**\* 31名（小学生：28名・引率：3名）**

#### ②夏休み企画「昔の遊び道具づくり体験教室」

**（平成28年7月21日～8月31日）**

今年度は、従来の割りばし鉄砲・ブンブンゴマ・紙ゴマに加え、竹鉄砲づくり体験教室も開催しました。竹鉄砲づくりは鋸を使って作業をするため、怪我をしないように注意しながら製作を指導しました。筒・押し棒・握り棒などそれぞれの径のサイズがぴったり合うのを見つけるのに苦労をしていました。また、筒に込める弾丸は、安全のため、ティッシュをぬらして丸めました。弾丸が飛び出す時に発する音が意外と大きく、みんなびっくりしていました。





竹鉄砲づくり



割りばし鉄砲づくり

■上中児童クラブ体験学習（平成28年8月26日）製作の様子



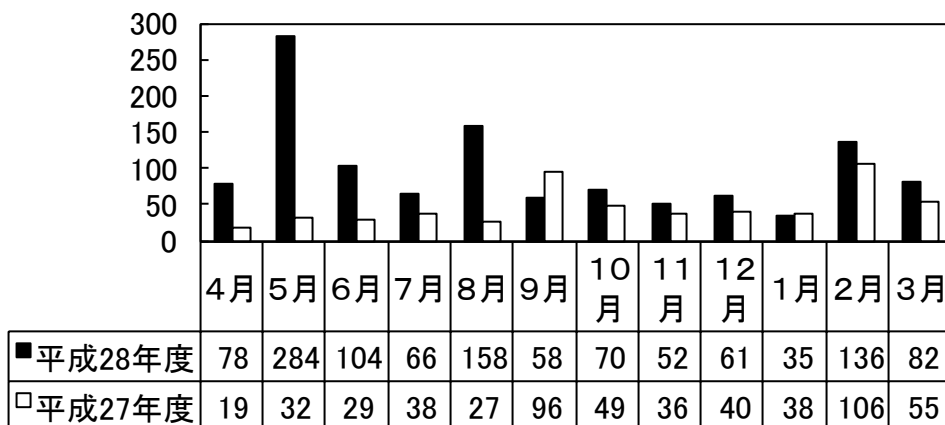
#### 4. 入館者数

##### 平成28年度 南種子町郷土館入館者数調査

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

分類	幼児	小学生	中学生	高校生	大学生	一般	計	町内	島内	島外
4月	5	35	0	0	0	38	78	50	3	25
5月	13	86	123	1	1	60	284	168	86	30
6月	3	56	1	0	0	44	104	89	6	9
7月	1	16	0	0	0	49	66	47	9	10
8月	5	61	4	19	1	68	158	90	28	40
9月	5	16	0	0	0	37	58	41	4	13
10月	5	20	1	0	0	44	70	47	4	19
11月	7	21	0	0	0	24	52	39	2	11
12月	3	15	0	0	0	43	61	30	3	28
1月	1	5	0	0	0	29	35	21	2	12
2月	3	79	1	0	8	45	136	104	7	25
3月	3	15	0	2	3	59	82	47	7	28
計	54	425	130	22	13	540	1,184	773	161	250

月別 入館者数の動向(前年度比較)



## 5. 郷土館の組織

- 館 長 高田 健一郎（社会教育課長）
  
- 文化係 才川 いずみ（文化係長）
- 学芸員 石堂 和博
- 学芸員 小脇 有希乃
  
- 管理員 豊島 巧
  
- 管理員（補） 平島 強
  
- 管理委員会委員長 羽生 源志（文化財保護審議会委員長）
  
- 管理委員会副委員長 長田 忠（文化財保護審議会副委員長）
  
- 管理委員会委員 岩澤 昭文（文化財保護審議会委員）
  
- 管理委員会委員 柳田 和則（文化財保護審議会委員）
  
- 管理委員会委員 日高 友典（文化財保護審議会委員）

## 6. 研究論文

### 宮松原神社について

南種子町文化財保護審議委員 柳田 和則

#### 1. はじめに

宮松原神社は、鹿児島県種子島、南種子町の大字島間字今出川に所在する神社で、明治44年につくられた日高圓碩の撰による縁起書が伝わる。下野敏見氏によると「島間中の神社のはじまりの祭り」で、昔は、旧8月1日の「たのみのせく」に、この神社へ参詣して踊り（エビス奉納踊り）も行われていたという（註1）。本発表は、宮松原神社で今も行われている潮祭りとは、この神社の縁起書及び神社に合祀されている恵比須について紹介したい。



宮松原神社

#### 2. 宮松原神社の概要

宮松原神社には、恵比須が合祀されている。宮松原神社の祭神は、神社縁起書によると少彦名命（すくなひこなのみこと）となっている。宮松原神社は、神社庁への登録はされていないが、島間中の神社を管理する島間岬神社の神主である上妻林太郎氏によると祭神は、大国主命とされる。神社には、社殿はなく、島間浦の恵比須様が合祀され、こちらが社殿をもっている。そのほか、3つの恵比須様が合祀されている。宮松原神社の御神体は、増田層に伴う2メートル四方ほどの化石を含む岩体である。この御神体には、ある人によると豊漁の際には、割れ目に魚をかませて、豊漁に感謝するというから、恵比須様と宮松原の神様は同一視されている面もあるらしい。

#### 3. 島間の潮祭り

現在は、1月25日に行っている。西之の潮祭りのように4箇所ではなく、宮松原神社だけで行う。島間地区の公民館長が主催者で、祝殿（ほいどん）をやとって祭りをする。祭りをを行う具体的な場所は、宮松原神社の恵比須様の横にある多くの石を積んだ所で、お賽銭のかわりに石を1つずつ目の前の浜から拾ってきて供える。祭りの最後には、島間浦でとれた魚の刺身を一切れずついただくことになっているが、刺身には塩をごく少量のみつける。この潮祭りでは、羽生源志氏によると大きく以下の3つのことを祀るとされる（註2）。



- ① 四方拜：年のはじめに行われる祭り。天下泰平、区民安寧、国土安穩、五穀豊穰、商売繁盛を祈願
- ② 潮祭り：潮害・塩害からまもる祈願祭
- ③ 恵比須祭：豊漁、商売繁盛、五穀豊穰、魔除けを祈願する祭り

なお、これらを祈願するものの、特別な願ほどきの行事は現在行われていない。参加者は、島間地区公民館長、副館長、会計、島間浦の浦長、神社総代、島間集落公民館長で、その他として島間駐在所、島間小学校長、地元選出町議会議員などの名士にも声をかける。神事は、降神の儀・献饌の儀・祈願・昇神の儀で構成される。



### 潮 祭 り

なお、昭和 30 年頃の潮祭りについて、下野敏見氏は次のように紹介している。「島間では新暦 2 月 25 日にシオ祭りを行う。これは島間中の神社のはじまりの祭り。島間中の安泰を祈る。宮松原のエビス神社のそばの山の中にある石の所で、神官をたのんでまつ。浜から役員の人達が石を 1 つずつ持って行って供えて祀る。シオ祭りでは、オットコ主命、コトシロ主命、水ハミの神、ミクハリの神、豊受の神、山の神を招神してまつ。祭りの時、正油のつかない魚を一キレずついただく。そしてナオライになる。直会は、田尾、仲之町、上方、小平山の 4 ケ部落が交代で世話する。この日は食いかぎり、いくらくっても良い。めでたぶしも歌う。但し、参加者は、氏子総代 1 人、町頭 2 人（以上、四ケ町で 12 人）、ホイドン 1 人、シオ祭りの当人 4 人、供物は、米、シオ、コロビ、トコロ、大豆、潮井（シュエイは、浜のモを海につけて、それを持って行って、竹を割ってひっかけて立てる）。直会は当人の部落の当人の家で、費用は町負担で行う。此のシオ祭りは、大字島間全体の祭りであって、浦の者だけの祭りではない。シオ祭りは、西之本村、下中、阿高磯、莖永でも行い、潮害を防ぐシオ祭りになっている。島間のシオ祭りも同主旨が本来の祭りであつたろう。（註 3）」

#### 4. 宮松原神社境内の恵比須様

宮松原神社境内の恵比須様は、昔、島間浦の中心であった稲子泊にあり、ついで宮松原に移されたが、島間浦の中心が、仲之町にうつると、宮松原では遠いことから、大正年間頃に仲之町の字新町に移した。昭和の初めころには、志布志の漁師が仲之町に一定期間滞在して漁をしていたが、この恵比須様が大変ご利益があり、魚を招いてくれるということ

で、盗み出し、志布志にもってかえって  
 しまったことがあった。島間浦の漁師は、  
 これは大変だということで、夜闇に紛れ  
 て取り戻しに行き無事取り戻したのだと  
 いう（鮫島正孝氏談）。だが、ここも近く  
 に墓地があつてよくないということになり、  
 移されている。このほかにも、稲子泊の  
 高瀬の神、シャンキイバアの神も移され  
 ている。また、西之宮の恵比須様（仲之  
 町田中家）も合祀されている（註4）。神  
 社の入口には、次の碑文が刻まれた砂岩製の高さ1メートル強の、万の供養塔が3基建て  
 られている。



供養塔

○明治三十三年巳冬 頭取 豊島  
 紀年石文□万能ノ供養  
 十二月二十七日

○明治二十六年 巳冬 浦人民中 頭取 元川覚□  
 小西□□

奉納 小魚万能ノ供養之石

○明治三十九年 紀念文 鯨魚供養 ※鯨魚は、トビウオ

## 5. 宮松原神社縁起に記載された宮址と化石

日高圓碩の撰による宮松原神社縁起は、明治44年にかかれ、縁起には次の一文がある。  
 ○砂中（すなはま）に経緯（たてよこ）数百尺の埋木あり、化（かわ）りて石と成れり  
 ○宮址（みや）の古墟（あと）を宮間津原と名づく、今にいたるまで遺跡（あと）猶うつ  
 くしくてあり

まず、宮松原神社のそばにあったという埋木の化石について考えたい。この化石につい  
 て、鮫島正孝氏によると、氏が10代前半の頃までは、宮松原神社の横を流れる今出川の  
 川底に樹の化石をみる事ができたという。また、現在も今出川の川底には、化石層が露  
 出している。この化石層は、増田層の一部で、現在もこの川の河口より北側の浜に多数露  
 出している。おそらくは、当時も増田層の一部が露出しており、そのことを記述したもの  
 だろう。なお、先述したとおり増田層の化石の岩体は、宮松原神社の御神体となっている。

つづいて、宮址についてであるが、この宮址と推定される場所は、現在の宮松原神社の  
 北側約40メートルの位置にある。10メートル四方の平坦な面と数メートルの平坦な面の

二面の平坦面が認められる。これらの平坦面の端には、数十cmの浜の円礫を並べて区画を形成している。数メートルの平坦面には、蘇鉄が二本植わっていて、祀りの場であったことを伺わせる。なお、鮫島正孝氏が十数年前にこの場所を調査した頃は、祀りに使われた器が散在していたらしい。

これらの事実は、宮松原神社縁起に記載されていることが、一定の信頼性をもつことを示している。

## 6. まとめ

宮松原神社は、江戸期に編纂された古文書に記載はないものの、島間地区において一定の由緒をもつ神社とみられ、そこに伝わる潮祭りは、島間中の祭りのはじまりの祭りとして

今でも伝承されている。このように、宮松原神社は、種子島の代表的な古文書に記載がなく、またこれまで、研究の対象になることが少なかったため、注目されにくかった。こうした各地区毎に祀られ、地域の中で育まれた神社は、記録に残ることが少なく、地域の人々の記憶の中からも消え去ろうとしている。遅きに失したかもしれないが、今ならば、なんとか人々の記憶を記録にできるかもしれないと一念発起し、本発表をまとめた次第である。なお、まだまだ調べ足りない面も多々あるので、今後も調査を続けていきたい。

註1 下野敏見 1962 種子島民俗調査報告 種子島漁業習俗 種子島科学同好会発行

註2 羽生源志 2010 南種子の散歩道（故事と四方山話） 南種子町地名研究会

註3 下野敏見 1962 種子島民俗調査報告 種子島漁業習俗 種子島科学同好会発行

註4 南種子町郷土誌編纂委員会 1987 南種子町郷土誌 南種子町